

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 地域でくらす会	代表者	井上 徹	法人・ 事業所 の特徴	社会福祉法人としての取り組みとしては、介護をしているご家族に対しての支援を行う為「やすらぎ支援員」としての養成講座や、介護予防サロン等の認知症予防対策と地域や市民への認知症啓発活動に力を入れている。事業所としては、様々な行事を開催し地域住民へ呼びかけを行い、地域の行事に参加するなどし、地域と協働出来るように努めている。また、介護を提供するだけでなく『その人らしくどう生きたいかに立ち返り、関係性こそその人らしさ、ひとりの支援が地域を変える』をモットーに、ご家族や地域・医療など、ご本人を取り巻く様々な関わりが一体となるよう働きかけている。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護 木守舎	管理者	竹内 勝也		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	2人	1人	0人	2人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①気づきノート等で見聞きした事は、担当スタッフに積極的に伝える。日々の介護記録と気づきノートにその後の様子をしっかりと書き加え、支援に繋げやすくする。	<ul style="list-style-type: none"> 日々、ご利用者の変化に気付けるよう意識し、何かあればその日に記録・報告を行っている。また、ミーティングや連絡帳・気づきノート等で情報共有することで、迅速に支援へ繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各テーマごとに具体的に計画を立てられていますが、一部、もう少し具体的にされた方が良いのかと思うテーマもありました。 13名のスタッフが取り組むためにも、(スタッフ個別評価スー①) 聞く体制→どのような体制？(スタッフ個別評価スー③) をどの様に伝えていくのか。文章？口頭？期間や回数なども決めた方が目標達成しやすいのでは？ あまりできてない・ほとんどできてない評価の箇所をもっと掘り下げて検討されればと思う。 忙しい業務の中で、人権に配慮したサービス提供、本当にご苦労様です。今後とも人員確保のうえ風通しの良い職場環境づくりをお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各ご利用者の何を支援すべきかをミーティング用紙を使って、職員がわかりやすいように明確化(リストアップ)する。 ②事前に計画を立てて、月に1名以上の個別支援を行う。 ③送迎時間(特に夕方送り)にスタッフ側からコミュニケーションを図り、ご家族・ご利用者の困りごとや不安を聞き出す。(具体的に何を聞き出すかもリストアップする)

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<p>①防犯と防災の観点から、センサーライトとセンサーの設置について見直しをする。</p> <p>②日々の点検で、気になる臭いがあれば換気等を行い、衛生管理にも努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・9/7にセンサーライト設置したが、日照不足で夜間の避難訓練時にライトが点灯しない事があり、再度見直しが必要。また、センサーの設置は防犯上役に立っている。 ・8月の事業所のアンケートにて、臭いや衛生管理の点で再度指摘があり、日々、換気等を行ったり清掃記録表を作り衛生管理に努めている。引き続き見直しが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の居心地は5段階評価でいうと4。しいていうならトイレトペーパーの紙が無いことがあるので手の届くところに予備を置いて欲しい。 ・利用者・家族に対してアンケートを集めると、より具体的に対応できると思います。 ・以前にいただいた「ご利用者・ご家族アンケート」の中で、臭いや床の清掃についてのご意見があったので、その後気をつけておられることがありましたら教えていただきたいです。 	<p>①普段の清掃とは別に、毎月1回、清掃の日を設ける。清掃の日は、事前に担当者を1人決めておき、その者が施設内外の清掃を行う。(外部のボランティアにも施設外の清掃をお願いする)</p>
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>①地域のイベントや個別支援を行う際は目的を明確にし、その成果や反省を計画書に記録し報告する。職員会議等で発表し、情報共有する。</p> <p>②近隣の子ども達へイベントの案内をし、ご利用者とふれあえる機会を増やす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントや個別支援を行う際は目的を明確にし、その成果や反省を計画書に記録し報告している。また毎月の職員会議で報告し、次の行事や支援に繋がるよう情報共有できている。 ・近隣の子ども達へイベントは、コロナウイルスのため中止している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の資料が事業所や利用者の事だけなので、地域との関わりや相談ごと(地域行事参加などで、その中で得た意見や話し)が分かる資料があれば評価しやすい。 	<p>①地域交流や近隣の子ども達との交流がコロナ禍でもできるような工夫をし、ご利用者とふれあえる機会を作る。</p> <p>②運営推進会議で、地域との関わりや相談ごとがわかるよう写真、資料の提示を行う。</p>
<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<p>①再度、担当者がご本人やご家族等から情報を得る。以前の暮らし方については10個以上にこだわらず、少しずつでも把握する。</p> <p>②担当者としてご本人やご家族へご挨拶すると共に、中心となっ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段関わる中で、生活歴や思いなどを理解できるようにご本人やご家族と話をしている。各ご利用者の「以前の暮らし方」は、少しずつだが前回より把握できている。 ・介助者側の主観で介助していた 	<ul style="list-style-type: none"> ・10個以上のこだわらずの計画に対して、スタッフ個別評価で、できていない点での反省に数値が入っている為、数値を記録するか検討された方が…。 	<p>①ご本人の日常生活の中で、できる所と難しい所を見直しし、ご家族にもお伝えすることで、職員とご家族の認識をすり合わせていく。</p> <p>②ご家族やご利用者に地区の行事やイベントを聞き、参加の働</p>

	て声掛けする。	り、ご本人よりご家族の希望を汲み取って支援していることがある。		きかけをする。(事前に地区の行事やイベントを把握することで支援に組みやすくなる)
E. 運営推進会議を活かした取り組み	①引き続き、地域行事や運営推進会議に参加する事で、意見や要望を共有し取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で地域行事への参加が減ってしまったが、可能な限り参加した。 ・運営推進会議は書面にて開催し、各委員のところへ訪問し意見を頂いた。一人ずつ話をする事で、じっくりと意見を聞くことができとても良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南行徳には約 120 人の高齢者(75 歳以上)がおられます。この方たちの相談、対応についても相談できるような体制が必要かもしれません。現状では隣組福祉員、民生委員が対応している。 ・困りごとなどの意見交換にはぜひ関わらせていただき情報を共有したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域担当の職員が地域の行事やサロンに参加する。(決まった職員が行く事で関係性が作りやすくなり相談ごとの窓口となる) ②町内に向けて、困りごとや不安が相談できるチラシを配布する。
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ①緊急時の避難場所を広報誌等でお知らせする。 ②防災担当が主となり、防災グッズの点検と備蓄・備品チェックを、年間計画チェック表を基に実施する。 ③緊急時、災害時に必要な情報は持出しやすいようにまとめておく。個別担当が主となり、年に一回は見直し更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の避難場所は令和 2 年 3 月にお知らせ済。 ・防災グッズの点検と備蓄・備品チェックは 4 月と 9 月に年間計画チェック表を基に点検済み。期限切れの物や不足品の調整を行う。 ・緊急時、災害時に必要な情報は、4 月に看護師とケアマネで見直し更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と情報交換、連携しながら対応したいと思います。よろしくお願いします。 ・実際の災害時には、なかなか訓練通りにならない事もあると思いますが、訓練を積み重ねたり、計画を見直していくことはとても大切だと思います。 ・一度消防の方に来てもらい指導してもらってはどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ①消防署の指導を受け避難ルートの見直しを行い、確保できるように整備する。 ②消防署の指導を受け、備蓄・備品・防災グッズの見直しをし、取り出しやすく持ち出しやすくする。(倉庫内の整理)

